

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

11/30 動労総連合(水野正美 委員長)を結成

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎!



新執行部を代表して発言を述べる水野委員長

全ての国鉄労働者は動労総連合の陣に結集せよ

組合員のみなさん。十一月三十日、われわれは、東京・日仏会館において、分割・民営化絶対反対の旗をかかげた闘う国鉄労働者が結集して、国鉄動力車労働組合総連合の結成をかちとった。七九年、動労千葉の分離独立いらい七年、ついに、本格的な動労大改革が開始された。

国鉄労働者に生き様、労働運動はその真価が問われている

国会審議を終え、差別、選別・首切り攻撃が具体的に開始されようとしている。希代の悪法・国鉄法案が成立したからといって、われわれが十万人首切り、国鉄労働運動つぶし、運賃値上げ、ローカル線切り捨てをどうして認められようか。中曾根の「戦後政治の総決算」攻撃の行きつく先は、改憲・軍事大国化であることは明らかだ。国鉄労働運動の解体は、その突破口だ。

だからこそ、攻撃の焦点にたたされた国鉄労働者の怒りの決起が、いま、何よりも求められているんだ。千葉、水戸、高崎の闘う国鉄労働者の結集体だけにとどまらず、国鉄労働運動の輝かしい歴史を継承し、国鉄分割・民営化絶対反対の旗を守り、一人の首切り

も許さない闘いの最先頭を担う、動労総連合の闘いに全ての国鉄労働者は結集せよ

闘う力の結集 闘う方針と組織の確立が求められている

どんなに苦しくても労働運動の原点を守り勇気をもって闘おう

全ての国鉄労働者に、「総連合」とともに決起することを訴える。

動労・真国労革マルを追放・一掃し、右翼鉄労、分裂主義者青友会を打倒し、国労の「組織防衛」を口実にズルズル後退―敗北への道を許さず、そして、「全民労協」「国鉄改革協、鉄道労連、進める会」など労働運動内部からの裏切りと対決しぬくならば必ず勝利する。どんなに苦しくても労働運動の原点を守り、勇気をもって共に闘おう。

結 成 宣 言

われわれは、本日、国鉄動力車労働組合総連合（動労総連合）を結成した。

これは、総屈服、総崩壊状況に陥った国鉄労働運動の戦闘的再生へ向けた第一歩である。われわれは、国鉄労働運動の輝かしい歴史を継承し、国鉄分割・民営化絶対反対の旗を守り、一人の首切りも許さない闘いの最先頭を担う決意である。

闘いは、「八法案」成立をもって、いよいよ最終的決戦段階に突入した。旬日のうちに、全国の職場・生産点で、首切りのための差別・選別攻撃との具体的対決が開始される。

国鉄労働者は今日まで、この数年間で労働者数を半減するという無謀な大要員合理化によって劣悪化した労働条件のもとで、日々、乗客の生命を守り、列車の安全を確保する使命を全うしつつ、日帝・中曽根体制からの不当極まりない攻撃にさらされ、この全く非人間的な攻撃の中で多くの国鉄労働者が殺されてきたのだ。

「国鉄改革による自殺者はいない」とうそぶく中曽根・杉浦・松崎を、どうして許せようか。

われわれは、日帝・中曽根体制の先兵として、補完物として、多くの国鉄労働者を死においこんだ国鉄労働運動の現実を痛苦の念をもって見据えなければならぬ。率先して資本にひざまづき、中曽根の下僕となりさがった動労・真国労革マルを追放・一掃せよ。

国鉄分割・民営化と十万人首切りを積極的に推進し、日の丸、君が代、自衛隊に賛成する「国鉄改革協一鉄道労連—進める会」を断固粉碎せよ。

闘いを貫徹する思想を持たぬが故に、決戦を先送りし、一戦も交えぬままズルズルと後退し、国労二十万組織を崩壊させ、動労革マルに追随する社共・総評・国労既成指導部を断固かつ徹底的に糾弾し、打倒し、のりこえよ。

動労千葉の二波にわたるストライキから、「六一・十一ダイ改」阻止の強力順法に至る闘いを見よ。

全国の「人活センター」をはじめとするハンスト、デモ、座り込み等、国鉄労働者の徹底抗戦の闘いを見よ。

国労修善寺大会に至る労使共同宣言粉碎の闘いを見よ。国鉄労働者は怒りに燃え、決起しているのだ。

われわれは、今こそ、これを真に闘い勝利する力とし

て組織しなければならぬ。アメリカ帝国主義と、朝鮮半島やフィリピンをはじめとするアジアでの帝国主義支配体制の危機の深化に追い詰められた日帝・中曽根体制が、その生き残りをかけて凄まじい決意で強行する攻撃の本質を見据え、これにたじろがず、怒りに燃えて団結し、決起する以外に全ての労働者が生きる道はないのだ。

本日、われわれは、闘えば必ず勝利することを確信して決起した。全ての国鉄労働者は動労総連合の闘いに結集せよ。

どんなに苦しくても労働運動の原点を守り、勇気をもって共に闘おうではないか。

右 宣言する。



1986年11月30日、動労総連合 結成大会（東京・日仏会館）

一九八六年十一月三十日